

調査票記載の留意点について

特記すべき事項(調査票裏面上段)の記載

- 調査時の同席者の有無、有の場合は同席者の関係も記入してください。
- 固有名詞や個人が特定されるような内容の記載はしないでください。
(名前、施設名、病院名、具体的地名など)

特記事項の記載

- 調査時(試行の結果、調査時の状況)と日頃の状況が異なる場合、日内変動や週内変動、日中と夜での変化がある場合などは、より頻回な状態での選択を行い、特記事項には調査時と日頃の状況などの具体的な内容を記載してください。
- 「3つの評価軸の特徴」(別シート)に沿い「根拠・頻度・選択」の3つにポイントを絞り記載してください。
根拠:「疾病/症状と、それに現れている状態」
頻度:「どのくらいの回数・時間でその状態になっているのか」
選択:「根拠と頻度をもとに、〇〇を選んだ」
【記載例】
* 2-5排尿 介護者が全介助している。× →紙おむつ使用。介護者がベッド上で定期的におむつ交換している。(昼間6回・夜間3回)「全介助」選択。
- 「適切な介助の方法」を選択した場合は、以下のような内容を含んだ記載をしてください。
 - ・本人の状況及び不適切と思われる状況や理由
 - ・適切(必要)であると思われる介助の具体的な内容
 - ・適切な介助方法として判断した選択肢
- 対象者の状態や行動は様々です。家族や介護者が困っていること、手間のかかっていることがうまく定義に当てはまらない場合や調査員自身が判断に迷った場合等は、その具体的な状況と調査員の判断根拠を特記事項に記載してください。
- 2群は、介護の手間の量を判断するうえで重要な項目です。具体的な介護の手間と頻度を記載してください。特に、2-2移動、2-4食事摂取、2-5排尿(失禁の有無)、2-6排便、2-10上衣の着脱、2-11ズボンの着脱は、軽度者であってもどの様に行っているか状況を記載してください。
- 固有名詞や個人が特定されるような内容の記載は記入しないでください。
 - ・3群の回答内容による名前、施設や病院名、具体的な地名、生年月日など。
- BPSD関連項目(主に4群)は、具体的状況、周囲の対応の有無、対応状況(介護の手間の具体的な状況)、行動の出現頻度(具体的な回数)などを記載してください。
- 特別な医療(6群)は、過去14日以内に実施されていることが一つの条件ですが、通院等の処置で継続されているが、タイミングで14日以内に該当しなかった場合も特記事項に記載してください。特記事項には「実施頻度/継続性」、「実施者」、「当該医療行為を必要とする理由」について記載してください。
- 日常生活の自立度(7群)についても、必ず選択根拠を記入してください。
- **事業所、調査員の皆様は、適正な個人情報の管理、徹底をお願いいたします。**
- 厚生労働省 認定調査員向け「eラーニング」の講義や問題集を受講してください。

【問い合わせ先】

高齢介護課介護認定給付係
電話 0897-52-1423

3つの評価軸の特徴

	能力	介助の方法	有 無
主な調査項目	身体能力 (10項目) 1-3.4.5.6.7.8.9.12.13 2-3 認知能力 (8項目) 3-1.2.3.4.5.6.7 5-3	生活機能 (12項目) 1-10.11 2-1.2.4.5.6.7.8.9.10.11 社会生活への適応 (4項目) 5-1.2.5.6.	麻痺等・拘縮 (9部位) 1-1(麻痺等) 1-2(拘縮) BPSD関連 2-12 (18項目) 3-8.9 4-1.2.3.4.5.6.7.8.9.10 4-11.12.13.14.15 5-4
選択肢の特徴	「 <u>できる</u> 」「 <u>できない</u> 」の表現が含まれる	「 <u>介助</u> 」の表現が含まれる	「 <u>なし</u> 」「 <u>ある</u> 」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	試行による本人の能力の評価	介護者の介助状況(適切な介助)	行動の発生頻度 に基づき選択(BPSD) ※麻痺・拘縮は能力と同じ
特記事項	日頃の状況 選択根拠・試行結果 (特に判断に迷う場合) 実際に行ってもらった状況と日頃の状況が異なる場合 (「日頃の状況」の意味に注意)	介護の量 を把握できる記述 (介助の量を把握できる記述)	介護の回数と頻度(BPSD) ※麻痺・拘縮は能力と同じ
留意点		実際に行われている介助が不適切な場合	選択と特記事項の基準が異なる点に注意 定義以外で手間のかかる類いの行動等がある場合(BPSD) ※麻痺・拘縮は能力と同じ